2003年度卒業研究

中国のプロパガンダ「雷鋒」—文化大革命期における受容

藤女子大学文学部
文化総合学科　００１５０９５番
氏　名　南山　有理
担当教員　野手　修

中国のプロパガンダ「雷鋒」—文化大革命期における受容

はじめに

第１章　雷鋒の生い立ち

第２章　雷鋒の特異性

第１節　プロパガンダとしての雷鋒

第２節　英雄の中の雷鋒

第３章　子供達が英雄に学ぶこと

第１節　子供向けの雑誌

第２節　雑誌の中における雷鋒の取りあげられ方

第３節　雷鋒同志に学ぶこと

まとめに

はじめに

論文の目的は、21世紀の中国社会に残る[1]「雷鋒同志に学べ」（向雷鋒同志学習）運動が開始された60年代以降に、雷鋒という人物が共産党による政治宣伝を通じ、いかにして中国共産党による政治宣伝の材料となっていったかを、体制側から与えられたものとして捉え、その様相を辿ることを目的とする。

雷鋒（1940 ～ 1962）は、22才で事故死した中国人民解放軍の一兵士である。「雷鋒同志に学べ」とは、1963年に毛沢東によって書かれた題字[2]が、運動のスローガンになっている。雷鋒は中国における英雄の一人である。中国における英雄という意味は「自分を顧みず、困難と危険を厭わず、人民の利益のために勇敢に戦い、尊敬される人」[3]である。英雄として称えられた人物が多くいる中、毎年３月になると、中国全土で「雷鋒同志に学べ」キャンペーンが実施される。

英雄の一人である雷鋒には道徳的な性質がある。それは、雷鋒が生前に数々の奉仕活動を行ったとされることが記された本人による日記、伝記、写真[4]が残されている。雷鋒の奉仕行為のエピソードとは、ある時、雷鋒が杖をついた老人を見かけると、代わりに荷物を背負い家まで送る。またある時、雷鋒は病院からの帰り道に工事現場を見かけると、煉瓦運びを手伝う。さらに雷鋒は倹約家としても有名で、ねじくぎ、鉄屑、などを集め「節約箱」を持っていたとされている[5]。このように、雷鋒には道徳的な性質があるということが、さまざまなエピソードから窺える。しかし、雷鋒を単なる道徳的な人物と断定することはできない。なぜなら、それは雷鋒が生前、人民解放軍内における整軍運動の一つである「両憶三査」[6]の政治宣伝の材料として利用されたからである。「両憶三査」運動の

---

(1) 図①参照。筆者は2003年３月11日～12日に中国、撫順市、雷鋒記念館を訪れた。その際に撮った写真を別紙に掲載する。雷鋒記念館は撫順のほか、雷鋒の故郷である湖南省望城県雷鋒鎮、遼寧省鞍山市、江蘇省太倉市に建てられている。記念館については、中野徹「雷鋒を記念する日々」『火輪』８月号（2000年９月）P.73 ～ 91 を参照されたい。

(2) 図②参照。雷鋒を称えるタイトル字を書いた人物は、毛沢東だけではないが。ここでは、毛沢東によるもののみを挙げる。「雷鋒同志に学べ」と書かれている。

(3) 『漢語大詞典』（新華書店、 1994 ）第９巻 P.344 より引用した。原文は「無私忘我，不辞艱険，為人民利益而英勇奮闘，令人敬佩的人。」

(4) 図③参照。子供に勉強を教えている雷鋒。

(5) 図④参照。雷鋒の節約精神を表わす写真。関大全等『雷鋒画冊　雷鋒記念館共稿』（大連出版社、 1998 ）

(6) 「両憶」とは旧時代の階級苦と、民族苦という二つの苦しかった思い出を回顧する教育運動。「三査」とは、兵士たちに自主的に自己の思想的立場、闘志、活動の三つを点検することである。現在の恵まれた条件に歓喜して、目前の不満や困難を克服して、活動の基本的態度を改めること。

実施は、 1960 年代の歴史的背景と深く関連している。 1960 年代の中国は、 1959 年からの自然災害やソビエトの援助停止、大躍進[7]運動などから、経済的危機に直面していた。軍内部において、兵士たちの士気の低下を補うものとして、「両憶三査」が行われたといわれている。雷鋒はたびたび、模範兵として称えられていたこともあって、「両憶三査」運動の宣伝材料の一つとして利用され、各地の部隊や小学校に出向いて、自分の過去、貧困と旧社会の苦しみを語った[8]とされている。宣伝の様子を表わすものとして、過去の苦しみを回想していたとされる雷鋒の写真[9]残っている。このように、雷鋒は生前において、すでに人々に知られるようになっていた。

雷鋒のもう一つの特徴を示すものとして、雷鋒の死に様にある、と考えられる。雷鋒が英雄として称えられた 60 年代には「英雄という概念は死である」[10] というように、英雄としてみなされるには、死をも厭わない態度が当然視されていた。中国全土において有名とされる英雄人物（劉胡蘭、董存瑞、丁佑君、楊根思、羅盛教、邱少雲、黄継光など）の多くが、人民の利益のために死亡している。しかし、雷鋒は職務中に、誘導したトラックによって倒れた棒が、彼の頭部に当たったために死亡した[11] といわれている。雷鋒は人民の利益のために亡くなった英雄ではない。つまり、雷鋒の死には、英雄としての行為が伴っていないのであった。

雷鋒が亡くなった 4 年後の 1966 年に発動された文化大革命（以下、文革とする。）では、「階級闘争」[12] が要とされる。文革期には、「憶苦思甜」（昔の苦しみを思い、今日の幸せをかみしめる）教育があった。それは、軍内部で実施された「両憶三査」運動と

---

[7] 大躍進とは毛沢東が中心となり、 1958 年から 1960 年の間に人民公社の設立、鉄鋼や穀物の生産を短期間に増産するという、理想社会を実現することを目的とした運動である。人民公社とは 1985 年に設立され、 1982 年に廃止された中国農村の行政、生産、社会基層組織をいう。天児慧等編著『岩波現代中国事典』（岩波書店、1990)P.695 を参考にした。

[8] 張士華等主編『雷鋒伝略』（遼寧人民出版社、 1998 ） P.96、 P.113 ～ 114 参照。

[9] 関大全等『雷鋒画冊　雷鋒記念館共稿』（大連出版社、 1998 ） P.23～ 26 参照。

[10] 華琪著『雷鋒系列叢書　雷鋒之謎』（解放軍出版社、北京、 1998 ） P.174 参照。

[11] 図⑤参照。周民華『雷鋒叔叔』（上海人民出版社、 1990 ） P.62　前述『雷鋒伝略』P.142 参照。

[12] 1919 年からの中国では、プロレタリア階級とブルジョア階級の闘争を意味する。本文中では文化大革命期における毛沢東の階級闘争論に基づいて、財産を持つか否かによって階級を類別されたことを意味する。財産を持たないか、少ししか持たない貧農は、工業労働者と同様に革命階級として高い評価が与えられた。これは社会主義社会の中でも階級は存在し、搾取階級と非搾取階級との間の階級闘争も絶えず発生するというものであった。前述した『岩波現代中国事典』P.91 を参考にした。

同様の性質を有している。雷鋒は、文革期においても英雄とされ、「雷鋒同志に学べ」運動は存続していた。

「雷鋒同志に学べ」とは中国全土に呼びかけられたものであり、人々は大人も子供も、英雄として称えられた雷鋒を模範として「学んだ」ようであった。

論文では子供向けに書かれた雑誌から雷鋒の様相を探ることを目的として、文革期に発行された子供向けの雑誌『紅小兵』(13) や文革期以前に発行された『児童時代』(14) 『小朋友』(15) 等を材料に考察を進める。雷鋒を体制側から与えられたものとして捉え、雷鋒像の変容をたどっていきたい。

---

(13) 『紅小兵』文革期に発行され、中国共産党が求める、あるべき子供の姿を宣伝する雑誌。各地で、『紅小兵』が発行されているようだが、本稿では上海、広東、湖南で発行されたものを中心に見ることにする。紅小兵とは、文革期における小・中学校の児童（7才～ 14 才）の呼称。文革以前、少年先鋒隊という共産党の組織が、文革期になると改名され紅小兵となる。少年先鋒隊とは、旧ソビエトのピオネールに習ったもの。武田雅哉著『よいこの文化大革命　紅小兵の世界』（廣済堂出版、 2003 ）P.16～ 21 を参考にした。紅小兵の生活については安剣星著『僕は毛首席の紅小兵だった』（透土社、 1996 ）を参考とした。

(14) 『児童時代』小学校、中・高学年を対象とした雑誌。 1950 年に宋慶齢によって上海で創刊された。 1966 年 10 月に、文化大革命によって停刊、 1978 年に復刊する。 1984 年に、これまでひと月 2 回の発行していたものを月刊に変更。雑誌の内容は、学校教育と少年先鋒隊の活動において、あるべき少年児童を育てるための理想、道徳、文化、規則、挿絵などが掲載されている。『児童文学事典』（ 四川少年児童出版社、 1991)P.19 を参考にした。

(15) 『小朋友』 1922 年 4 月に創刊される。 1939 年日本軍の上海侵略により停刊。 1945 年に重慶で復刊する。 1952 年 12 月上海児童出版社が設立。 1953 年にこれまで、小学校、中学年を対象にしていた内容を低学年向けにし、 32 ページだったものを 20 ページにする。 1966 年 7 月、文化大革命によって、停刊、 1978 年に復刊。内容は、抗日戦争、解放戦争、国民党といった時代ごとに、児童のあるべき姿を宣伝するものが掲載去れ、その他に、科学、文化知識、童話、歌、漫画、寸劇や日常生活に密着した図画工作、日記、写真、迷路などがある。前述した『児童文学事典』P.61を参考にした。

第1章　雷鋒の生い立ち

雷鋒の生い立ちは、彼の日記、詩、写真など様々な資料によって見ることができる[16]。伝記の内容について、竹内(1990)は「その信憑性にいく分かの疑いを抱く」[17]としている。ここで確認されなければならないことは、資料の性格上、史実が現実か否かということを明らかにすることは非常に困難だということである。中国社会において（少なくとも公的には）、これらの資料は歴史的事実としてみなされている。同時にその内容は中国における公的な史実として、一種の整合性を有する必要がある。歴史的現実として描かれた雷鋒は、「語り」のなかでの構造的規範に縛られることを意味しよう。「語り」の中の雷鋒の生涯を概略してゆくこととする[18]。

雷鋒の幼少期(1940～1949)

雷鋒は1940年12月18日に、湖南省望城県の貧農の家に生まれた。雷鋒の父は荷担ぎ人夫だったが、日本兵に打たれた傷が元で1945年に死亡し、雷鋒の兄、雷振徳は工場で労働していたが、過労のために肺結核を患って1938年に死亡する。同年、雷鋒の弟、雷三明も2才で餓死する。1947年に母、雷揚氏は地主の唐家に働きに出るが、陵辱され、自殺した[19]といわれている。こうして雷鋒は孤児となり、親戚の家で世話になり、親戚の家計を助けるべく、地主の山で薪を切っていると、地主が鉈で雷鋒の手を傷つけたといわれている。1949年に中華人民共和国が建国し、雷鋒は解放される[20]。その際、雷鋒は湖南省にやってきた人民解放軍の兵士になりたいと兵士に頼んだ[21]といわれている。

雷鋒の学生時代(1950～1956)

1950年夏、雷鋒は小学校に入学する。勉強熱心で、同級生の勉強を手伝う優等生だっ

---

(16) 雷鋒に関する文献は、網羅的ではないが本稿末の参考文献に挙げた。
(17) 竹内弘行「雷鋒思想浅解」『名古屋学院大学外国語学部論集　言語・文化篇』(1990年10月号）第2巻、第1号P.123より引用。
(18)) 雷鋒の生い立ちをたどるため主に参考とした資料は、以下の4冊である。張士華等主編『雷鋒伝略』（遼寧人民出版社、1998）、関大全著『雷鋒年譜』（吉林教育出版社、1992）、陳庵生、崔家駿著『雷鋒的故事』（解放軍文芸出版社、北京、1990）吴政、楊秀琴編『雷鋒日記詩文新編』（大連出版社、1998）
(19) 陳庵生、崔家駿著『雷鋒的故事』P.3～5参照。
(20) 共産党によって旧社会（資本主義社会）から、政治的に解放されたことを意味する。
(21) 前述『雷鋒的故事』P.8参照。

たと[22]いわれている。 14 歳の時、少年先鋒隊[23]に入隊する。

仕事に就く(1956 ～ 1958)

1956 年夏、雷鋒は小学校を卒業し9月に、雷鋒は郷政府で伝令員をすることになる。後に彼は中国共産党望城県委員会の公務員となった。雷鋒は仕事の傍ら、中学校の勉強をしていた[24]とされる。 1957 年2月8日に青年団に参加する。 1957 年に望城県の治水工事に自ら参加した[25]という。

鞍山鋼鉄公司(1958 ～ 1959)

1958 年 11 月 15 日、雷鋒は望城県から鞍山鋼鉄公司にやってきた。それは国の鋼鉄の需要に貢献するため、鞍山にやってきたといわれている。雷鋒はこれまでの名前、雷正興の名前を雷鋒に変えた。そこではブルドーザー「スターリン 80 号」を運転し、よく働いた[26]とされている。 1959 年8月、鉄鋼生産のため、鞍山鋼鉄公司が礦山にコークス科学工廠を新設することになると、雷鋒は進んでそこに行くことを希望した[27]といわれている。同僚が、雷鋒が進んで厳しい労働現場に行くことに対して意見をいうと、雷鋒は「みんながきみのように『りこう』だったら、私達の社会主義建設なんてしなくてもいいだろう。党は困難なところがあればそこにいき、必要なところがあればそこに行くように、私達に教えているのだ。私達は、このような『ばか』にならなければならないのだ」と雷鋒は語った[28]という。雷鋒は 1960 年に、社会主義建設積極分子という称号を獲得した[29]とされている。

人民解放軍に入隊する(1960 ～ 1962)

1959 年に徴兵が始まり、雷鋒は入隊を希望して身体検査を受けるのだが、体重も身長

---

(22) 前述『雷鋒的故事』P.14参照。
(23) 旧ソビエトのピオネールに習った、小・中学校の児童(7才～ 14 才)による共産党の組織。その象徴として「紅領巾(赤いネッカチーフ)」がある。
(24) 『雷鋒年譜』 P.7 参照。
(25) 『雷鋒伝略』P.31参照。
(26) 『雷鋒年譜』P.15～ 16 参照。
(27) 『雷鋒年譜』P.19
(28) 『雷鋒年譜』P.19
(29) 『雷鋒伝略』P.56

も入隊基準に適さないために入隊許可が貰えない。雷鋒の身長は154ｃｍ、体重は50kgに満たなかった[30]。しかし、軍部は試験的に雷鋒の働きをみて、その後に入隊の許可をすることにする。そこで、雷鋒は軍服の整理、水汲み、手紙を届けに行くこと等、細かな仕事を率先して行った[31]とされている。新兵受領部隊の指導部は雷鋒の入隊に関して再検討することとなるが、雷鋒の階級的立場や政治思想は良好であることや、仕事を積極的に行うことなど、入隊の動機も良かったため、体の条件では不足していたが入隊を認められた[32]といわれている。雷鋒は、入隊一日目のできごとを日記に綴っている[33]。そこでは、董存瑞、黄継光、安業民などの英雄戦士に学ぶといったことが書かれている。この時、雷鋒は必ず毛沢東時代の良い戦士になる[34]と、日記に書いたという。

1960年1月7日、雷鋒は正式に入隊する。雷鋒は、運輸中隊に配属され、自動車兵となった。兵士としての訓練項目の中に手榴弾投げがあり、雷鋒も手榴弾投げの訓練をした。体の小さい雷鋒の飛距離は標準に達せず、休憩時間もその訓練に励んだが、そのために腕が腫上がってしまうほどだった。それでも彼は、黄継光[35]のようになろうと、消灯時間になってからも手榴弾投げの練習をした[36]といわれている。1960年4月、雷鋒は撫順にやってくる。1960年8月20日に撫順望花区で人民公社が成立するにあたって、雷鋒は日頃から貯金していた200元を渡した。しかし、人民公社は100元しか受け取らなかった。その後、渡したはずの100元も返されたといわれている。[37]

1960年になると、毛主席の著作を学習する運動が活発になる。すると、雷鋒は疲れも厭わず、毛沢東の著作を学んだ[38]といわれている。10月、軍部内では「両憶三査」運動が行われる。9月に、雷鋒は節約模範兵選ばれていること[39]もあって、「両憶三査」運動に参加した[40]。10月10日連隊党支部の委託を受けて、雷鋒は撫順の望花建設街

---

(30) 『雷鋒的故事』P.101～102参照。
(31) 『雷鋒的故事』P.102参照。
(32) 『雷鋒的故事』P.105参照。
(33) 『雷鋒的故事』P.105参照。
(34) 次章でも述べるが、朝鮮戦争中の人民志願軍の一兵士。朝鮮戦争にて戦死する。
(35) 『雷鋒年譜』P.24参照。
(36) 『雷鋒年譜』P.24参照。
(37) 『雷鋒年譜』P.28参照。
(38) 『雷鋒年譜』P.32参照。
(39) 『雷鋒年譜』P.30、『雷鋒伝略』P.96参照。
(40) 『雷鋒伝略』P.96参照。

小学校（現在の雷鋒小学校）[41]に校外補導員[42]として招かれた。雷鋒は自分が過去に受けた旧社会の苦しみ、解放後の幸福を小学生に語って聞かせた[43]といわれている。

1960年11月8日に雷鋒は中国共産党に入党する。雷鋒は、この日の感動を「この日を永遠に忘れることはない」と日記に記している[45]。

11月14日に雷鋒は、丹東某部隊で「憶苦思甜」の報告を行った[46]とされる。

1960年末、『人民日報』には雷鋒の生い立ちを「苦しんだ子供が優秀な人民戦士になった」（苦孩子成為優秀人民戦士）と掲載され、『解放軍報』には「ひと株のたくましく成長する新芽」（一株茁壮的新苗）と掲載され、『中国青年報』では「苦しんだ子供――よい戦士」（苦孩子――好戦士）と掲載された[47]。

1961年5月3日年、夕方、雷鋒は老婆と、子供が雨の中歩いているのを見ると、子供を背負い、自分の雨具は老婆に貸してやり、彼らを家まで送っていった[48]。家に着いて老婆が雷鋒に感謝の言葉をいうと「私に感謝しないで、党と毛主席の主席に感謝してください」と言ったといわれている。

1961年5月のある日、雷鋒は列車で丹東に出張に出かけた[49]。そして、瀋陽駅で乗り換えるとき、切符を無くした中年の女の人を見つけた。その人は、吉林から山東に向かっていたという。雷鋒はこの女の人に切符を買ってあげた。彼女は、その御返しをするため、雷鋒に名前と、所属部隊を聞くと、「聞かないで下さい。私は解放軍で、中国に住んでいます。」と言った[50]といわれている。雷鋒は丹東からの出張の帰りに、朝の5時、瀋陽でバスに乗り換えた。その時、雷鋒は杖をついた大きな荷物を持った老婆を見つけて、雷鋒が老婆の荷物を背負ってあげた。老婆の目的地と雷鋒の向かう方向が同じ撫順だったので、雷鋒は老婆を送っていくことにした。バスに乗って、老婆の席を確保すると自分は傍らに立ち、「私は疲れないよ」と言った。バスが動きだすと、自分の持っていたパ

---

(41) 図⑥参照。
(42) 郊外においてこどもたちを教育する労働者・農民・兵士などをいう。前述の武田雅哉著『よいこの文化大革命　紅小兵の世界』P.67を参考にした。
(43) 『雷鋒伝略』 P.113 参照。
(45) 『雷鋒日記詩文新編』 P.9 参照。
(46) 『雷鋒年譜』P.32参照。
(47) 『雷鋒伝略』P.98参照。
(48) 『雷鋒年譜』P.40参照。
(49) 春光編著『雷鋒的故事　注音挿図本』（湖南少年児童出版社、 2002 ） P.157 ～ 159 参照
(50) 前述した『雷鋒的故事　注音挿図本』 P.159 参照

ンを老婆に与え、撫順に着くと老婆の子供の家を探してやり、家まで送った[51]とされている。

1961年6月1日、雷鋒は班長になる。

8月15日、中秋節になると事務所から各班へ月餅[52]が配られた。雷鋒も月餅を4つ貰った。しかし、雷鋒はそれを食べないで、撫順市西部職員・労働者病院に出かけ、月餅と手紙を持って、慰問に出かけた[53]といわれている。雷鋒が慰問に出かけた様子は、写真に残されている[54]。

1962年5月28年、雷鋒は少年先鋒隊優秀補導員として表彰される[55]。

1962年8月15日、雷鋒は同僚の喬安山が運転するトラックを誘導した際に、トラックによって物干し棒が倒れ、それが頭部に当たったことで死亡した[56]とされている。

1963年3月5日、毛沢東によって「雷鋒同志に学べ」という題字が『人民日報』掲載され、雷鋒学習運動が呼びかけられる[57]。

竹内(1990)は雷鋒の日記、行動から窺える彼の思想について、雷鋒の思想には、共産党によって救済され、その恩返しとして党に尽くすという思考パターンがある。さらに、党又は政府の呼びかけに即応答する行動パターンが見られる[58]と述べている。

先に述べたように、これら記述を史実として立証することは困難であり、雷鋒自身による日記、逸話、写真等も党の宣伝活動との関連で分析されるべきであろう。その結果、雷鋒にかかわるデータをいかに読むべきかという問題が生じてくる。例えば、これらは単なる虚偽なのであろうか。竹内のいうパターンに示唆されたように、雷鋒に関わる記述は、その内容面での信憑性に問題はあるが、「語り」としてある整合性を維持すべく構成されている。歴史的事実とされた雷鋒に関わる記述はいかなる影響力をもちえたのか。

---

(51) 前述した『雷鋒的故事　注音挿図本』P.160～163参照。
(52) 中秋節に食する中国伝統の菓子。中秋節とは旧暦の8月15日の名月をめでる日をいう。『岩波現代中国事典』P.257参照。
(53) 前述した『雷鋒伝略』P.125参照。
(54) 前述した『雷鋒画冊　雷鋒記念館共稿』P.23図⑦参照。
(55) 前述した『雷鋒年譜』P.50参照。
(56) 前述した『雷鋒伝略』P.142参照。
(57) 前述した『雷鋒年譜』P.55参照。
(58) 竹内弘行「雷鋒思想浅解」『名古屋学院大学論集　言語・文化篇』(1990.10月号)P.116参照。

第２章　　雷鋒の特異性

第１節　プロパガンダとしての雷鋒

雷鋒が生前すでに有名になっていたのは、雷鋒が人民解放軍内における政治的プロパガンダの材料として利用されたためだった。

プロパガンダという言葉は、ローマカトリック教会によって使われたことが、その始まりだといわれている。プロパガンダは初め、「特定の観念を普及または促進することを意味する」[59] ものであった。しかし、ローマカトリック教会が、その教義を対立する、プロテスタント教会にも普及させる意図をもっていたため、プロパガンダという言葉は、その後、布教活動を進めるうちに軽蔑的な意味に変わった。

ガース・S・ジャウエット、ビクトリア・オドンネル(1993)は「プロパガンダは、プロパガンディストの望む意図をさらに促進するような反応を得るため、知覚を形成し、認知を操作し、行動を指示しようとする、周到で組織的な試みである」[60] と定義している。雷鋒が人民解放軍のプロパガンダ材料として利用されたのは、 1960 年に行われた整軍運動の一つである「両憶三査」だった。この運動の模範となったのが、雷鋒である。

人民解放軍内部における「両憶三査」運動の実施は、 1960 年代の歴史的背景と深く関連している。 1960 年代の中国は、 1959 年からの自然災害やソビエトの援助停止、大躍進運動などから、経済的危機に直面していた。その様子は本郷(1964)の『工作通訊抄』[61] から窺うことができる。『工作通訊抄』という本の「工作通訊」とは、人民解放軍の機密扱いの部内活動報告である。その内容は、軍委員会の決議や訓令、総政治部の指示、部隊の報告、そして軍の政治思想教育や軍事訓練、軍隊の管理工作、補給、生活に関する問題など、軍関係の様々な問題についての報告である。その報告の中に、地方の人民が、食糧事情について語る模様が次のように書かれている。

「『食糧は一体どこへ消え失せたのだろう。どうして食えないのだ。』『国家が取り

---

[59] ガース・S・ジャウエット、ビクトリア・オドンネル著　松尾光晏訳『大衆操作　宗教から戦争まで』（ジャパン・タイムズ、 1993 ） P.4 より引用。
[60] 同書 P.7 より引用。
[61] 本郷賀一訳『工作通訊抄』（時事通信社、 1964 ）参照。

あげてしまって、民百姓に食わせないのと違うか。』『毎年毎年災害とはこれいかに。』」[62]

こうした食料飢饉は全国的なものであり、深刻な社会不安を起こしていたのであるが、軍隊に供給される物資は、一般の人民と比べ、優遇されていた。しかし、後に軍への食糧の配給量も減少せざるを得なくなり、それにつれて、兵士の不満が募るようになっていった[63]。こうした不満の他、兵士の士気を高揚させる動機も、軍内部では喪失してきたのだ。それは、1960 年代になると、軍は実戦によって訓練される機会がなく、兵士たちは、戦闘を経験することが無くなっていたことに関係する。1950 年代には、雷鋒が模範とした「雷鋒日記」の中に登場する人民解放軍の兵士、黄継光が朝鮮戦争に参加し、戦死している。しかし、雷鋒が解放軍に入隊した頃は、兵士達は戦争を体験することがなかった。こうして、苦しい食糧事情、士気の低下が、軍内部での動揺を生み出していた。そうした情況の元、総政治部総司令官、林彪は、政治思想工作の指示を発表した。それは、兵士の訓練内容については、軍事的な訓練の怠らず、さらには政治思想にかける時間を増やすべきだ[65]というものだった。これは、実戦経験の無い軍の弱体化を、思想によって補うものであった。

運動の具体的な内容は、兵士に旧社会[66]の苦しみを思い出させ、その苦悩を根源まで掘り下げて階級意識を呼び覚まさせる。そして、現在の生活の安楽さについて語りあい、安楽の根源を探り、人民公社化以後の幸福について大いに語らせることで兵士の思想意識を向上させる[67]というものだった。

「両憶三査」の現場で、兵士たちは「泣くことを強制」させられ、兵士たちはこのように自己改造した成果を、泣くことによって、表現させられた[68]。
さらに、兵士たちは、生きた思想「両憶三査」運動を、毛沢東思想と結びつけて学ばなければならなかった[69]。毛沢東思想とその運動を結びつけることとは、毛沢東によって今の幸せがあるのだということを認識することと同義だった。

このように大躍進運動後の国内の経済的困難や不満を「両憶三査」運動を行うことによ

---

(62) 同書P.12
(63) 同書P.20
(65) 同書P.77
(66) 一般に 1949 年以前を指す。
(67) 同書 P.171
(68) 同書 P.172
(69) 同書 P.265

って、解消しようとした。「両憶三査」について同書によると、林彪が以下の指示を出したとされている。

「三査は本人の自覚にたよって、ほかから余計な口出しをしたり、闘争に重点をおいたりしてはならない。追及したり、強制したりしないで、話すだけ話させ、点検はただ班の会議の席上で行うことだけに留めるべきである。」[70]

さらに同書によれば、報告の中に過去の苦しみを想起する運動に参加した将兵の例として、雷鋒が挙げられている[71]と書かれている。仮に雷鋒の参加がプロパガンダと一環として描かれたとしても、悲惨な境遇を過ごしていたものは、将兵の中には非常に多かった。その点で、雷鋒は「両憶三査」が対象とする兵士たちの典型として見なすことができる。雷鋒は「両憶三査」の宣伝の一つの模範として、党の宣伝材料となった[72]。雷鋒は「苦大仇深」（苦しみは大きく怨みは深い）という経歴と、「憶苦思甜」教育のモデルとして、体制側の宣伝に使われた[73]という。雷鋒の生涯についての記述の「使用」は実際には多岐にわたる。なぜ、政治的な宣伝材料とされた雷鋒が、現代の中国社会の中に存続することとなったのだろうか。中国には多くの英雄達が存在し、その中でも、毛沢東による呼びかけを受けた雷鋒が、なぜ「雷鋒同志に学べ」運動として現代社会に残ることとなったのか、以下他の英雄との比較において雷鋒が、どのような特異性を持っているのかを検証してゆく。そうすることで、雷鋒の特異な位置付けを探ることができるのではないだろうか。

---

(70) 同書 P.197
(71) 同書 P.194
(72) 『雷鋒伝略』P.96
(73) 華東方選文、張峻、欧達龍等撮影『解読雷鋒』（遼寧少年児童出版社、 2000 ） p60 参照。

第2節　英雄の中の雷鋒

日本社会における英雄の意味は「常人にはとうてい不可能なほどのすぐれたことをなしとげ、大衆から熱狂的に尊敬される人。」[75] である。中国では英雄とは一般に「自分を顧みず、困難と危険を厭わず、人民の利益のために勇敢に戦い、尊敬される人。」[76] である。

中国における英雄は雷鋒だけではなく、他にも多く存在している。また、雷鋒が手本とした英雄がいるくらいであるから、年代に応じた英雄がいる[77] のだ。また、雷鋒が書いたとされる『雷鋒日記』の中で、雷鋒は黄継光という英雄を崇拝したとされている。黄継光とは、朝鮮戦争で戦死した人民解放軍の兵士である。ここでは、雷鋒の特異性を探るものとして、雷鋒が模範とした黄継光と同じ年代を生きた英雄を『青年英雄の物語』[78] をもとに挙げてみることにする。

劉胡蘭 (1932 ～ 1947)

山西省文水県出身。貧農の家に生まれる。毛首席の著作をよく学ぶ。

日本、蒋介石、地主を敵とする立場を明らかにした。 18 歳から入党が許されるはずの中国共産党に 14 歳で入党を許可される。匪賊に捕まって殺される。死後、毛沢東による「生きるという偉大、死ぬという光栄」という題字が書かれる。

董存瑞 (1929 ～ 1948)

河北省壊来県南山堡出身。 12 才の時、児童団[79] に入り、団長に選ばれる。 1947 年

---

(75) 松村明編『大辞林』(三省堂、 1988)P.252 より引用。
(76) 注 (3) 参照。
(77) 雷鋒が学んだ英雄がいるように、雷鋒が英雄となった 60 年代にも、中国全土において有名な英雄が称えられている。また、英雄模範の最初の人物として雷鋒を挙げ、主に文革期における英雄の性質について書かれている。中屋敷宏「文革期における『共産主義的人物」の問題――人民解放軍における模範的人物の変遷」九州中国学会報 19 号 (1973 年 6 月)P.31 ～ 42
(78) 『青年英雄的故事　本社編』（中国青年出版社、北京、 1964 ）
(79) 革命前、中国共産党が各地の革命根拠地において指導結成した少年児童組織。

夏、人民解放軍に入隊。次の年に共産党入党。敵のトーチカを爆破して死亡。死後、戦闘英雄、模範党員として事後承認される。

丁佑君(1931～1950)

成都の女子中の高学年を退学して人民革命幹部学校に入学。中学校教師をしていた。匪賊によって殺される。死後、共産党党員として事後承認される。

楊根思(1922～1950)

江蘇省太興県出身。貧農の家に生まれる。新四軍に参加する。1945 中国共産党に入党。1950 年に全国戦闘英雄会議に出席する。同年、朝鮮戦争の人民志願軍[80]として参加する。その際に、ダイナマイトを抱えて、敵軍に突撃し、死亡する。死後、特級英雄として事後承認される。朝鮮民主主義人民共和国英雄の称号を授与し、同国から金星奨章と一級国旗勲章を授与する。

羅盛教(1931～1952)

湖南省新化県出身。1949 年に人民解放軍に入隊する。1950 年中国新民主主義青年団に加入する。1951 年、朝鮮戦争に人民志願軍として参加する。川で溺れた朝鮮人の子供救って、死亡する。死後、一級模範、特等功臣の称号、模範青年団員として事後承認される。朝鮮民主主義人民共和国より、一級国旗勲章と一級戦士栄誉勲章を授与する。

邱少雲(1931～1952)

四川省銅梁出身。人民解放軍兵士。1951 年に人民志願軍として朝鮮戦争に参加する。戦場で待ち伏せ攻撃中、焼夷弾を受けるが、待機部隊を隠そうとして身体を動かさなかったため、焼死した。死後、一級模範の称号受け、中国共産党党員として事後承認される。朝鮮民主主義人民共和国英雄の称号を授与し、同国から一級国旗勲章と一級戦士栄誉勲章を授与する。

黄継光(1930～1952)

四川省中江出身。朝鮮戦争における人民志願軍兵士。1951 年に朝鮮戦争の際に、自分の

---

[80] 朝鮮戦争に派遣された中国軍で米軍との全面戦争を避けるために、正規軍の参戦を人民が自発的に戦争に参加した“志願軍”であると称した。

胸で敵のトーチカの射撃口を塞いで死亡した。死後、特級英雄、中国共産党党員、模範青年団員として事後承認される。朝鮮民主主義人民共和国英雄の称号を授与し、同国より金星奨章と一級国旗勲章を授与する。

こうして、英雄となった人物を見てゆくと、幾つかの共通点が明らかになる。取りあげた資料が『青年英雄の物語』であるということも考慮しなければならないが、みな若くして亡くなっている。そして、英雄とされる人物には、死後に賞を授与、もしくは共産党への入党を許されるという栄誉が与えられている。

英雄とは、「自分を顧みず、困難と危険を厭わず、人民の利益のために勇敢に戦い、尊敬される人。」を意味するものであるが、以上の英雄の姿を追うと、英雄の行為の結末には死があるということが窺える。英雄として称えられた人物達の英雄性には死が伴っているのではないだろうか。英雄の死について張峻は『永遠の雷鋒——雷鋒写真記事』において以下のように述べている。

> 歴史が英雄を創造することを求める、歴史の一つ一つの一里塚にはいずれも英雄の名声を刻み込んでいる。「生命は死で終結し、偉大さは死の中から誕生する」この生と死の繋がりあう瞬間が、英雄が名を成す全ての過程と常に等しいのだ。これは人々が経験した実践し検証した「英雄」パターンで、いわゆる張思徳、劉胡蘭、董存瑞、黄継光、邱少雲、欧陽海、王傑、劉英俊、焦祐禄、孔繁森、李向群……というものである。数え切れない英雄の行為のすべてが、ある「パターン」の確実性を証明した、これはまさに人々がいつもいう、いわゆる人の真価は死後に初めて定まるというものである。(81)

このように、英雄行為と死とが密接な関係にあることが窺える。また、上述した英雄達が死亡した場面について中国語では「死了」（死んだ）と表現されず、「犠牲」（犠牲と

---

(81) 張峻選文撮影『永恒的雷鋒——雷鋒照片記事』（遼寧人民出版社、 2000 ） P.238
原文は「歴史需要英雄創造，歴史的毎個里程碑都鐫刻着英雄的美名。“生命到死亡結束。偉大従死亡誕生”。這生与死的瞬間交替，恒等于英雄成名的全部過程。這是人們経過了実践検験的“英雄”定式：張思徳、劉胡蘭、董存瑞、黄継光、邱少雲、欧陽海、王傑、劉英俊、焦祐禄、孔繁森、李向群……無数英雄的実践，都証明了一“定式”的可靠性，這就是人們常説的“盖棺定論”」

なった）と表現される[82]。雷鋒の死の場面に関していえば、英雄行為によって彼は「犠牲となった」のだろうか。雷鋒の最期は、自ら誘導したトラックによって倒された棒が雷鋒の頭部に当たり、亡くなった。雷鋒の死には、英雄としての行為を伴ってはいないのである。つまり雷鋒の死は「人民の利益のために戦った」ために生じたものではなく、まさに「死んだ」のであった。しかし、雷鋒も死の表現は、多くの英雄達と同様に「犠牲となった」と書かれている。華琪は『雷鋒新論』の中でこう述べている。

「ただ、雷鋒が犠牲になる場面は壮烈な行動とは懸け離れている。しかし、彼は却って、新たな観点に立ち、『死をもって英雄とみなす』という思考パターンに対して、進んで否定した。彼は世間の人にさらに深遠な話題を伝えたのは、いわゆる生きることは死よりも価値がある、というもので、さらにこれが英雄としてよいパターンである。」[83]

しかし、体制側は英雄というものが「死をもって英雄」とみなされることを否定してはいないようだ。それは、雷鋒と同時期に英雄として称えられた人物の死には、依然として英雄としての行為が伴っている[84]ことからも窺える。

---

[82] 『青年英雄の物語』に書かれている英雄は皆、「犠牲になった」と表現されている。参考文献に挙げた雷鋒に関する本からは、「死んだ」と書かれているものは見つからなかった。

[83] 華琪著『雷鋒新論』（雷鋒系列叢書　解放軍出版社、北京、 1998 ） P.175
原文は「只是雷鋒犠牲的場面遠非壮烈之挙。但他却站在一個斬新的角度，対“以死論英雄”的思維定式進行了否定。他告訴世人一個更為深邃的話題：活得比泰山還重，更是英雄成功的定式。」

[84] 『青年英雄的故事　続編』（ 中国青年出版社、 1965 年 ）による。

[表1]

人物名	生没年	職業	生まれ	死亡した理由
徐双喜	1931~1959	農家	貧農	国の財産のため火傷
蘇満基	1940~1960	警察	工場労働者	国の財産のため火傷
劉代林、	1933~1960	通信員	貧農	国の財産のため火傷
韓官学	1938~1960	機械技術者	貧農	国の財産のため火傷
趙夢桃	1935~1963	工場労働者	貧苦家庭	肺を患ったため
張英男	1940~1964	工場労働者	貧農	溺れた子どもを救う

第3章　子供達が英雄に学ぶこと

第1節　子供向けの雑誌

武田(2003)は雷鋒を「日本の二宮尊徳がそうであるように、どちらかというと、こどもむけの道徳的ヒーロー」[85]だとしている。二宮尊徳は、子供時代に苦労をして、農業発展に貢献し、偉業を成し遂げた人物である[86]。しかし、二宮尊徳と雷鋒は、少々性質が異なるのである。それは「道徳的」という面においては類似しているが、これまで見てきた雷鋒の政治的な背景を考慮すると、比較することが難しくなる。

雷鋒は生前に、撫順の小学校に出向き、補導員として子供達に課外活動を指導していた。1960年10月に撫順で開かれた郊外補導員大会に出席した雷鋒は、この大会で「憶苦思甜」の報告をした。会場にいた子供達はみな目に涙を溜めて、雷鋒の話を聞いたという[87]。

こういった思想教育の他に、数学を教える、堆肥にする人糞を集める、節約箱を用意して指導するなど、子供たちと共に奉仕活動[88]をしていた。そうして、雷鋒は子供達に「雷鋒おじさん」として親しまれていた、そういった雷鋒と子供の姿は写真に収められている[89]。また、雷鋒は殉職した後に、優秀な補導員としての称号を貰っている。そして、雷鋒には生前、子供との関わりを表すエピソードも数多く残されている。

この章では、中国全土で展開された「雷鋒同志に学べ」運動が、子供に求められた雷鋒学習行為がいかなるものだったかを、子供向けの雑誌を基に探ってゆく。考察の対象とした子供向けの雑誌は『児童時代』、『小朋友』、『紅小兵』である。このうち、『紅小兵』は文革期に発行された雑誌である。

謝臣	1940~1963	人民解放軍	農家	洪水に飛び込む
欧陽海	1940~1963	人民解放軍	貧農	列車に飛び込む
趙尓春	1941~1964	人民解放軍	貧農	火災に飛び込む
王傑	1942~1965	人民解放軍	貧農	地雷を自らが受けて

(85) 前述した『よいこの文化大革命　紅小兵の世界』P.28より引用した。
(86) 井上章一著『ノスタルジック・アイドル二宮金次郎』（新宿書房、1989）参照。
(87) 『雷鋒伝略』P.113～114を参照。
(88) 前述した『雷鋒画冊　雷鋒記念館共稿』図⑧参照
(89) 前述した『雷鋒画冊　雷鋒記念館共稿』図⑨参照

武田(2000)は文革期の児童文学について、以下のように述べている。

「文革次期の児童文学が『空白』であるといわれる理由のひとつに、『童趣』とでもいいましょうか、『こどもらしさ』を持ったものがほとんど存在しないということが、あげられるでしょう。

革命模範劇のいずれにも、たしかに紅小兵たちがみずからを重ね合わせられるような、こどものキャラクターは出てきません。大人の世界の作品が、そのままのかたちでこどもたちに提供され、おとなのための作品をそのまま鑑賞しなければならないわけです。（…略…）

ただし、そのおとなむけの作品群が、大衆的であることを第一にこころがけて作られているというのもまた、事実であります。したがって、実際には『おとな』と『こども』の分類があって、『こども』のものが空白であるというよりは、両者の境界線が明瞭ではなく、年齢の壁を取りはらった、より大多数の国家の構成員にとって、理解にはそれほど苦労しないもの、平易なものが与えられていったほうが適切かもしれません。」[90]

上述のように武田(2003)は文革期の児童文学は「『こどもらしさ』のある児童文学がほとんど存在していない」、また「『おとな』と『こども』の境界線がはっきりしない、大衆に理解しやすいものだった」としている。では、子供向けに描かれた「雷鋒」はどのような描かれ方をしたのだろうか。子供向け雑誌からみる、雷鋒の描かれ方をみてゆくことにする。

文革期の中国全土における書物の発行数は、文革以前と比べて減少しており、発行されている書物の多くが、毛沢東思想を学習するための物であった。無論、子供向けの本の発行数も減っている。文革期に発行された書物が少ない中、子供向けの雑誌である『紅小兵』が、隔月、もしくは毎月発行されるようになる。この『紅小兵』とは「為政者主導の児童誌」[91]であり、英雄の話、生活に関係すること、教養的なこと、毛沢東思想などが掲載されている。

『紅小兵』における雷鋒の扱われ方は、中国全土において有名な英雄達のそれとは異な

---

[90] 武田雅哉著『よいこの文化大革命　紅小兵の世界』（廣済堂出版、 2003 ） P.141 ～ 142 より引用。
[91] 同書 P.239 より引用。

る。『紅小兵』の中に、「革命英雄の物語」（革命英雄的故事）というコーナーがあり[92]、毎月さまざまな英雄が登場する。「革命英雄の物語」コーナーの一貫したストーリーは、子供たちに英雄行為に学ぼうと呼びかける話であり、雷鋒も例外なくこのコーナーで、扱われている。しかし、雷鋒は英雄コーナーに限らず、多様な形体を取って雑誌の中に現れる。人民解放軍の帽子（特に冬季用のもの）を被った雷鋒の顔[93]、もしくは、「雷鋒」という文字[94]が、シンボルとして描かれる。さらに、英雄コーナーで扱われる英雄達と異なる点は、その『紅小兵』の表紙に雷鋒が1人で登場する[95]ことである。そして雷鋒が表紙を飾る月は、ほぼ3月と決まっている。それは、雷鋒が亡くなった月ではなく、毛沢東が「雷鋒に学べ」と呼びかけた月だった。

さらに表紙を飾った英雄として雷鋒の他に、もう1人注目すべき英雄がいる。それは、人民解放軍兵士、王傑[96]である。王傑は「雷鋒に学ぼう」運動の後に、全国で大規模に行われる英雄学習運動の宣伝として利用され[97]、1965年の11月に「王傑に学ぶ」運動が展開された。彼は、雷鋒、董存瑞、黄継光に学んだ英雄であり[98]、人民の利益の為に死亡した英雄の1人である。1965年の子供向けの雑誌『小朋友』、『児童時代』の表紙では、1965年23期(12月1日)の『児童時代』と1966年2期(1月25日)の『小朋友』に王傑が描かれている[99]。雑誌の表紙だけではなく、その内容において雷鋒と同じように「王傑に学ぶ」コーナー[100]が設けられ、子供達に「苦しみを恐れず、死を恐れない」（不怕苦、不怕死）[101]を学ぶべきものとして描かれている。1965年の11月ま

---

(92) 図⑩参照
(93) 図⑪参照『紅小兵』1973年、3期、雲南版
(94) 図⑫参照『紅小兵』1975年、3期、広東版
(95) 図⑬参照『紅小兵』1973年、3期、湖南版
(96) 王傑は1942年山東省金郷県の生まれ。1961年8月に人民解放軍に入隊。1965年夏、王傑は民兵地雷班の訓練を担当した。7月14日不慮の爆発事故が起こる。12名の民兵・戦士をかばい、自ら犠牲となって殉職した。その後、3年にわたって綴られた王傑の日記が発見され、彼が一切を革命に捧げた青年の典型であることがわかった。1965年11月5日には、周恩来、朱徳、林彪によって題字が書かれた。「雷鋒に学べ」運動につぐ、「王傑に学べ」運動が展開された。
(97) 中屋敷宏「文革期における『共産主義的人物』の問題――人民解放軍における模範的人物の変遷」九州中国学会報19号(1973年6月)P.33参照。
(98) 石仲泉等編『中国当代英模的故事』(中共党史出版社、1996)P.43～44参照。
(99) 図⑭参照。『児童時代』1965年23期、『小朋友』1966年2期
(100) 『小朋友』1966年24号、1966年1号参照。
(101) 図⑮参照。『小朋友』1966年4号

では雑誌内において、雷鋒の登場ばかりが目立っていたが[102]、「雷鋒に学ぶ」のコーナーが「王傑に学ぶ」のそれに取って代わってしまう[103]。その「王傑に学ぶ」運動がいかなるものだったのかということが、これらの雑誌から窺える。王傑が亡くなった場面を漫画として描いた「王傑の物語」[104]などが見られる。その他に「王傑に学ぶ」行為として、子どもを主人公とした漫画の中で、その遊んでいた子どもが、遊びを止めて勉強に取りかかる時に「王傑に学ぶ」というのだ[106]。それは、王傑の学習態度、時間を惜しんで毛沢東の著作を学んだ[107]とされる姿を子供が「学ぶべきもの」として表現したものではないだろうか。

王傑が雷鋒に取って代わったことを示すものとして、王傑の象徴が挙げられる。「雷鋒に学ぶ」行為をした時に描かれる雷鋒の顔[108]と同様に、シンボル化された王傑の顔[109]が、1966 年までに描かれるようになった。しかし、表紙を飾った英雄、王傑が『児童時代』『小朋友』に現れてからその後、『紅小兵』の表紙一面を飾ることは無かった。シンボル化された王傑の顔も、「革命英雄を称える」コーナーの他に描かれることはなかったようである。そして、「王傑に学ぶ」運動は「雷鋒に学ぶ」運動のように毎年の運動とはならず、雑誌『紅小兵』において、他の英雄達と同じ扱いとなる。

第2節　雑誌における雷鋒の取りあげられ方

「雷鋒同志に学べ」週間ではなくとも、『紅小兵』では「雷鋒に学ぶ」子供が描かれる。雑誌における雷鋒に関する表現の仕方については、彼が行ったとされる奉仕行為そのものや、雷鋒の日記が掲載されるという直接雷鋒を描くものばかりではない。雷鋒を直接描いたものではないというのは、子供を主人公とした物語のなかで、その主人公が「雷鋒に学ぶ」行為によって、褒められる、もしくは、努力して何かを身につけた、という話が

---

(102) 『児童時代』 1965 年 6 期、7 期、8 期、11期、 12 期、 13 期と雷鋒の話題が必ず含まれている。
(103) 『児童時代』 1965 年 22 期の内容における全てのタイトルに王傑がついている。同年 23 期には王傑が表紙を飾る。
(104) 図⑯参照。
(106) 図⑰参照。
(107) 中屋敷宏「整風運動の研究―『雷鋒』学習運動の成立―」筑紫女学園短期大学紀要 8 号 (1973 年 3 月) P .35 参照
(108) 雲南版『紅小兵』 1974 年 7 期
(109) 図⑱参照

展開されること[110]から窺える。雷鋒を直接描いた「雷鋒の話」や「雷鋒日記」「写真」「題字」も、もちろん子供向け雑誌に掲載される物ではあるが、これらは「雷鋒に学ぶ」週間がある3月に掲載されることが多い[111]。

その他の雷鋒に関する表現方法としては「雷鋒」という文字そのもの、もしくは雷鋒の顔を、物語の結末に持ってくること[112]などがある。『紅小兵』中の雷鋒は、大人向けの雑誌『工農兵画報』などと比べ、子供用に描かれている。『工農兵画報』[113]における、雷鋒に関する表現は『共産主義戦士——雷鋒』や『雷鋒日記』といった、直接雷鋒に関するものである。

さらに『紅小兵』における「雷鋒」が視覚的に利用されたばかりではなく、聴覚的に学ぶことを求められたものを示すものとして、「ピンイン学習」（学拼音）コーナーにおける使用[114]が見られる。『紅小兵』中での雷鋒日記の掲載の仕方は、日記そのものが掲載されることもあるが、中国語を学習する際に使用する発音記号、拼音を学ぶコーナーに出現することがある。これは、日記の内容は思想的な教育の意味が強いが、拼音を学ぶこと自体は、教養として扱われるものである。

第3節　子供達が「雷鋒同志に学ぶ」こと

「雷鋒同志に学べ」運動の中心的な課題は、日常的に人に奉仕することにある。しかし、雷鋒の生前における宣伝内容「憶苦思甜」と、雷鋒が死亡してからの「雷鋒同志に学べ」運動は少々異なる。雷鋒の持つ英雄性は、経歴、奉仕行為にある。「憶苦思甜」観は雷鋒の経歴に対応しており、「雷鋒同志に学べ」運動は先の思想を受けて、その思考の由来を表現するものとなったのではないか。つまり、雷鋒が死亡してからは、人民に奉仕することに課題が移ったのである。

---

(110) 雲南版『紅小兵』 1973 年3期

(111) 湖南版『紅小兵』 1972 年2期「雷鋒おじさんの話」「雷鋒日記」「雷鋒の幼少期」 1973 年3期、表紙を雷鋒が飾り、「偉大なる共産主義戦士——雷鋒」、「雷鋒」（おいたち）というものが掲載されている。

(112) 雲南版『紅小兵』 1974 年7期における 10 コマ漫画の結末を雷鋒が飾る。

(113) 労働者・農民・兵士を対象とした雑誌。手元にあるもの『工農兵画報』（浙江工農兵画報社、 1973 年4期）表紙は「雷鋒のような人になる」内容は「共産主義戦士—雷鋒」というそのままの雷鋒が書かれている。

(114) 広東版『紅小兵』 1975 年3期、11期， 1973 年、 9期、 6期、 5期、 4期、 3期、 1972 年 10 期と湖南版『紅小兵』 1973 年11期、 1974 年3期に「雷鋒」の発音が入っている。

『児童時代』 1965 年 11 号に「雷鋒おじさんは私達の発展を鼓舞している」（雷鋒叔叔鼓舞着我們前進）というコーナー[115]がある。これは『児童時代』 1965 年 6 号で編集部が、子供達に「雷鋒に学んだ」ことを 1000 字以内にまとめたものを募集したことによる[116]。また、募集した原稿から優秀な作品を載せている。その選出にあたって、編集部によるコメントが掲載されている[117]。

「投稿された原稿から、明らかに見出すことができたのは、私達少年児童が、すでに毛主席によって出された「雷鋒同志に学べ」の呼びかけを、自分の行動に変えたことである。」[118]

子供たちに求められた「雷鋒同志に学ぶこと」とは、「雷鋒の日記」や「雷鋒の話」を模範として、自分の行動に変えることだったということが窺える。

おわりに

これまで見てきたように、雷鋒という人物は生前から、単なる道徳的なものとして扱われてはいなかった。さらに、死後中国共産党による政治宣伝の材料として利用された雷鋒は、人々の生活の中に残っているのである。政治宣伝、つまりプロパガンダは歴史と共に否定されるのが一般であるのにもかかわらず、中国における雷鋒の存在は、特異なものと言ってよいのではないだろうか。

『中国のプロパガンダ芸術』において牧(2000)は、文革期において毛沢東自らが政治宣伝の材料となった毛沢東様式に関して、以下のように述べている。

「人民はプロパガンダに『洗脳された』というより積極的に受け取っていたと言っていい。つまり、一方的に『おしつけられた』特定の主義・思想というよりはむしろ

---

(115) 図⑲参照。
(116) 図⑳参照。
(117) 図 21 参照。
(118) 『児童時代』（中国福利会児童時代社、 1965 年 6 月 1 日、総合第 360 期　11号）P.7
「従来稿中，可以鮮明地看出：我国少年児童，已把毛主席発出的“向雷鋒同志学習”的号召，変成了自己的行動。」この11号から、募集した作品が掲載されている。この「雷鋒おじさんは私達の発展を鼓舞している」（雷鋒叔叔鼓舞着我們前進）コーナーが見られる、手元にある『児童時代』は 12 号、 13 号、 15 号、 17 号である。

自らおしつける側にも立っていた。」[119]

と述べているように「雷鋒同志に学べ」という体制側から与えられたはずの政治宣伝内容は、人々の生活の中に入り込んでいった[120]のである。

さらに、全中国へと広がった「雷鋒同志に学べ」というメッセージは、子供達にも「学ぶべき」ものとなった。「雷鋒に学ぶ」ことは政治的メッセージをもったプロパガンダであると同時に、日常的な行為の中に道徳性を求めるといった、教育的効果をもたらすものであるとみえる。これまで述べてきたように「雷鋒に学ぶ」ことは日常的な行為に英雄性がある、という特異なものであった。

本稿では、人々が「雷鋒」というプロパガンダによって、扇動された、洗脳されたということを中心に述べるものではなく、現代にも残る、雷鋒学習運動の研究をする上での初歩的な考察を加えるものであった。雷鋒学習運動の原点を考察することで、雷鋒のプロパガンダ性が、体制側から与えられたものの中でも、特異な性質を持ったものであるということが明らかになったのではないか。現代にも残る「雷鋒に学べ」運動の全貌を知るために、今後も「雷鋒に学べ」運動の研究を更に深めてゆきたい。

(119) 牧陽一、松浦恆雄、川田進著『中国のプロパガンダ芸術』（岩波書店、 2000 ） P.1 より引用。
(120) 図 22 参照。

卒論参考文献

・　日本語文献

本郷賀一訳『工作通訊抄』（時事通信社、 1964 ）

クラウス・メーネルト著、赤羽根龍夫訳『嵐のあとの中国』（読売新聞社、 1972 ）

中屋敷宏「整風運動の研究―「雷鋒」学習運動の成立―」筑紫女学園短期大学紀要 8(1973.3月)P.65 ～ 92

中屋敷宏「文革期における「共産主義的人物」の問題――人民解放軍における模範的人物の変遷」九州中国学会報 19(1973.6 月)P.31 ～ 42

安藤正士、太田勝洪、辻康吾著『文化大革命と現代中国』（岩波新書、 1986 ）

陳凱歌著、刈間文俊訳『私の紅衛兵時代―ある映画監督の青春』（講談社現代新書、 1990)

竹内弘行「雷鋒思想浅解」『名古屋学院大学論集　言語・文化篇』（ 1990.10 月号） P.104 ～ 124

中野徹「雷鋒を記念する日々」『火輪』(2000.9 月)P.73 ～ 91

厳家祺、高皋著、辻康吾監訳『文化大革命十年史（上・中・下）』（岩波書店、 1996 ）

張承志著、小島晋治、田所竹彦訳『紅衛兵の時代』（岩波新書、1992)

内藤陽介著『マオの肖像　毛沢東切手で読み解く現代中国』（雄山閣出版、 1999)

井上章一著『ノスタルジック・アイドル二宮金次郎』（新宿書房、 1989)

安剣星著『僕は毛首席の紅小兵だった』（透土社、 1996 ）

オリヴァー・トムソン著、山県宏光，馬場彰訳『煽動の研究　歴史を変えた世論操作』(TBS ブリタニカ、 1983)

A.プラトカニス、E.アロンソン著、社会行動研究会訳『プロパガンダ――広告・宣伝のからくりを見抜く』（誠信書房、 1998 ）

ガース・S・ジャウエット、ビクトリア・オドンネル、松尾光晏訳『大衆操作　宗教から戦争まで』（ジャパン・タイムズ、 1993)

佐藤卓巳著『大衆宣伝の神話』（弘文堂、 1992 ）

ヴィリーミュンツェンベルク著／星乃治彦訳『武器としての宣伝』（柏書房、 1995 ）

牧陽一、松浦恆雄、川田進著『中国のプロパガンダ芸術』（岩波書店、 2000 ）

中国研究所編集『中国年鑑 2002 年版』（創土社、 2002）
『 '60 年代の青年運動』アジア遊学No.41（勉誠出版、 2002 ）
武田雅哉著『よいこの文化大革命　紅小兵の世界』（廣済堂出版、 2003 ）
佐藤浩「欠けたジグソーパズルをどう組むのか　――林彪におもう――」『火輪』
(2003.9 月)P.39 ～ 57
・　中国語文献
▸ 姜維樸等／改編者　費声福等／絵者『雷鋒』（人民美術出版社、 1963）
▸ 王建郁、李森林、潘彩英／改編　王真、劉馗、李子紘、金岩、房英魁、姚洪発、趙明釣、徐思／絵画『毛主席的戦士―雷鋒』（遼寧人民出版社、 1963）
『毛首席的好戦士――雷鋒』（中国青年出版社、北京、 1963）
姜維樸等／改編者　費声福等／絵者『雷鋒』（人民美術出版社、 1963）
『雷鋒』（中国少年児童出版社、北京、 1963）
李兆徳著『雷鋒和紅領巾』（春風文芸出版社、瀋陽、 1963）
遼寧人民出版社編『論学習雷鋒』（遼寧人民出版社、 1964）
『毛首席的好戦士――解放軍先進人物事跡選』（中国青年出版社、北京、 1964）
『青年英雄的故事　本社編』（中国青年出版社、北京、 1964）
▸ 呉敏／画『雷鋒叔叔的故事』（中国少年児童出版社、 1964）
▸ 楊永青／画　中国少年報改作『雷鋒小時候的故事』（中国少年児童出版社、 1964）
『青年英雄的故事　続編』（中国青年出版社、北京、 1965）
丁洪、陸柱国、崔家駿、馮毅夫著『雷鋒　電影文学劇本』（中国電影出版社、北京、1965）
『労働人民的好児子　雷鋒』（中国少年児童出版社、北京、 1965）
▸『雷鋒』（中国電影出版社、 1965）
沈政編著『雷鋒班的故事』（少年児童出版社、上海、 1966）
▸ 劉含真／改編　銭貴蓀／絵『雷鋒的少年時代』根据中国少年報（人民美術出版社、1966）
▸『雷鋒』根据瀋陽部隊政治部絵制的幻灯片《毛主席的好戦士――雷鋒》改編（浙江人民出版社、 1971）
『雷鋒』（北京軍区政治部組織部翻印、 1973）※解放軍文芸社の『雷鋒的故事』と『雷鋒

日記選』を合わせたもの。

陳庵生、崔家駿著『雷鋒的故事』（解放軍文芸社、北京、 1973）

陳庵生、崔家駿、潘照坤、王徳昌著『雷鋒的故事』（解放軍文芸社、北京、 1973）

▸劉含真／改編　銭貴蓀／絵『雷鋒的少年時代』根据《中国少年報》（人民美術出版社、1973）

▸『雷鋒』根据瀋陽部隊政治部解放軍画報社供稿（人民美術出版社、 1973）

▸秦国良、張兆臨／画『雷鋒的故事・孩子們的知心人』（江蘇美術出版社、 1973）

陳庵生、崔家駿著『雷鋒的故事』（中国人民解放軍戦士出版社、北京、 1977）

▸李兆徳／写　翟祖花／画『雷鋒』（上海人民出版社、 1977）

▸陳庵生、崔家駿原／著　林丹／改編　毛震耀／絵画『雷鋒的故事』（上海人民出版社、1977）

▸朱雲芳／編文　汪観清／絵画『雷鋒』（江蘇美術出版社、 1982）

総政治部編『雷鋒日記選』（解放軍文芸出版社、 1989）

共青団上海市委宣伝部編『雷鋒故事新編』（上海交通大学出版社、 1989）

総政治部編『雷鋒日記選』（解放軍文芸出版社、 1989）

龍国強、翟元斌著『学雷鋒向導』（中共中央校出版社、 1990）

雪峰編著『中処名人故事叢書――雷鋒』（中国和平出版社、北京、 1990）

陳廠生、崔家駿著『雷鋒的故事』（解放軍文芸出版社、 1990）

姜維樸等／改編者　費声福等／絵者『雷鋒』（人民美術出版社、 1990）

雷鋒記念館編『雷鋒与雷鋒記念館』（雷鋒記念館、 1990）※出版社不明

▸姜維樸等／改編者　費声福等／絵者『雷鋒』（人民美術出版社、 1990）

▸編文／周鋭　絵／陸汝浩　葉冠華　陸筠涛　袁根明　周民華『雷鋒叔叔』（上海人民出版社、 1990）

陳庵生、崔家駿著『雷鋒的故事』（解放軍文芸出版社、北京、 1990）

瀋陽軍区司令部直属政治部編『接過雷鋒的槍』（遼寧人民出版社、 1990）

劉巨才、王紹華、潘樹平編著『中国学雷鋒活動 30 年簡史』（紅旗出版社、 1991）

中共湖南省望城県委員会、湖南省望城県人民政府編『雷鋒在故郷』（中南工業大学出版、1991）※出版年不明

李之熙『回顧学雷鋒活動的起源和発展』（白山出版社、 1991）

関大全著『雷鋒年譜』（吉林教育出版社、 1992）

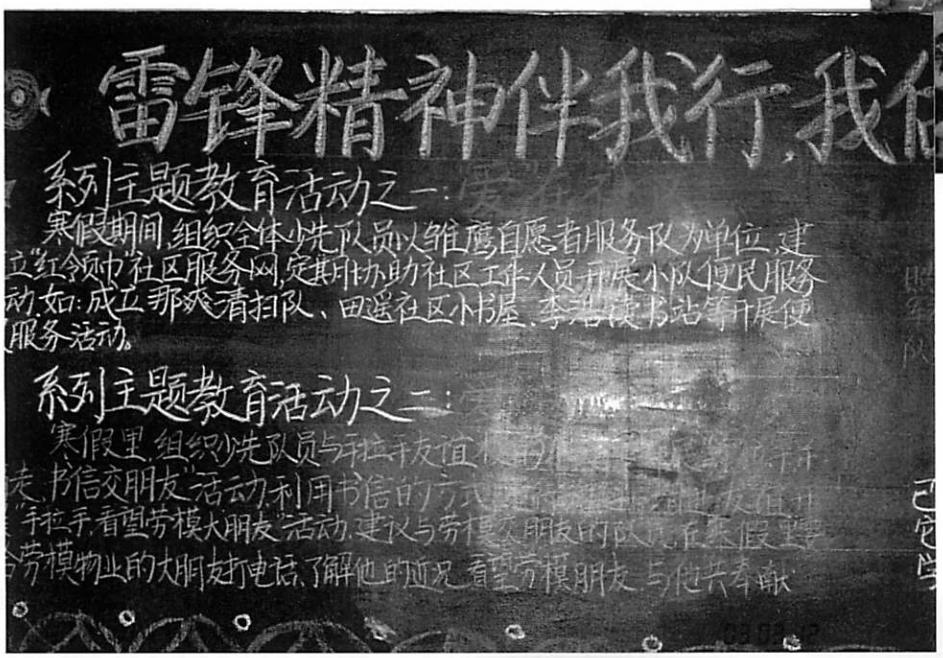
王徳昌、関大全著『憶雷鋒』（春風文芸出版社、瀋陽、 1992）
張岩峰編『雷鋒精神与社会主義市場経済』（吉林教育出版社、 1993）
華東方編著『中外学雷鋒寄語』（遼寧教育出版社、 1995）
石仲泉、陳登才主編『中国当代英模的故事（之四）』（中共党史出版社、 1996）
王興東、陳宝光著『離開雷鋒的日々』（解放軍文芸出版社、北京、 1997）
《雷鋒志》編撰委員会『雷鋒志』（白山出版社、 1998）
華琪著『雷鋒系列叢書　雷鋒新論』（解放軍出版社、北京、 1998）
華琪著『雷鋒系列叢書　雷鋒之謎』（解放軍出版社、北京、 1998）
華琪著『雷鋒系列叢書　雷鋒現象』（解放軍出版社、北京、 1998）
柏柯編『雷鋒系列叢書　雷鋒賛歌』（解放軍出版社、北京、 1998）
雲飛編『雷鋒系列叢書　雷鋒現象』（解放軍出版社、北京、 1998）
卞延編『雷鋒系列叢書　雷鋒心語』（解放軍出版社、北京、 1998）
汪辛編『雷鋒系列叢書　雷鋒記事』（解放軍出版社、北京、 1998）
吳政、楊秀琴編『雷鋒日記詩文新編』（大連出版社、 1998）
《雷鋒精神永恒》展覧辦公室編『《雷鋒精神永恒》展覧簡介』(1998)※出版社・年不明
関大全等『雷鋒画冊　雷鋒記念館共稿』（大連出版社、 1998）
張士華等主編『雷鋒伝略』（遼寧人民出版社、 1998）
湖南雷鋒記念館編『光輝的榜様――雷鋒』（湖南雷鋒記念館、 1999）※出版社不明
華東方著『新世紀雷鋒叢書之五　雷鋒在人間』（春風文芸出版社、瀋陽、 2000）
華東方著『新世紀雷鋒叢書之四　雷鋒戦友喬安山』（春風文芸出版社、瀋陽、 2000）
華東方著『新世紀雷鋒叢書之三　雷鋒伝人追踪』（春風文芸出版社、瀋陽、 2000）
華東方著『新世紀雷鋒叢書之二　雷鋒身辺的人』（春風文芸出版社、瀋陽、 2000）
華東方著『新世紀青少年雷鋒叢書　雷鋒和他的学生孫桂琴的故事』（遼寧少年児童出版社、瀋陽、 2000）
華東方著『新世紀青少年雷鋒叢書　雷鋒和雷鋒班班長的故事』（遼寧少年児童出版社、瀋陽、 2000）
華東方著『新世紀青少年雷鋒叢書　雷鋒和他的戦友喬安山的故事』（遼寧少年児童出版社、瀋陽、 2000）
望城県雷鋒記念館編／胡道明著『走近雷鋒』（望城県雷鋒記念館、 2000）※出版社不明
張業清『祖国不会忘記・雷鋒』（陝西人民出版社、2000）

華東方選文／張峻、欧達龍等撮影『解読雷鋒』（遼寧少年児童出版社、 2000）
張峻選文／撮影『永恒的雷鋒——雷鋒照片記事』（遼寧人民出版社、 2000）
▸竇孝鵬　編文、関慶留　絵画『革命英模人物故事絵画叢書——雷鋒』（金盾出版社、2000 ）
馬克猛編『走向文明——市民読本』（白山出版社、 2000 ）
楊一青主編『語文　義務教育六年制小学課本（試用）』第 6 冊（浙江教育出版社、 2001）
浙江省義務教育教材編委会『語文　義務教育六年制小学課本（試用）』第 11 冊（浙江教育出版社、 2001）
陳庵生著『雷鋒在我画心中』（上海大学出版社、 2002）
李松涛著『雷鋒　我們与你同行』（吉林教育出版社、 2002）
春光編著『雷鋒的故事　注音挿図本』（湖南少年児童出版社、 2002）
鍾嫻編著『雷鋒的故事　文字図片本』（湖南少年児童出版社、 2002）
鍾雷主編『少児注音名人故事　雷鋒』（哈尔滨出版社、 2002）
鍾雷主編『青少年素質教育必読・朝陽巻　雷鋒』（哈尔滨出版社、 2002）
陶克、王跃生著『雷鋒現象』（解放軍文芸出版社、 2003）
戴明章編『走近雷鋒』（解放軍文芸出版社、 2003）
華琪著『雷鋒的真実人生』（群衆出版社、北京、 2003）
中国青年編集部編『離不開雷鋒的日々』（中国和平出版社、北京、 2003）
《雷鋒精神在第二故郷》編集委員会編『雷鋒精神在第二故郷』（遼寧民族出版社、 2003）
孫建和、殷雲嶺著『雷鋒伝』（中国青年出版社、 2003）
本社編『雷鋒的故事』（中国少年児童出版社、 2003）
胡世宗、陳庵生著『雷鋒』（春風文芸出版社、 2003）
▸は連環画

图①

雷锋商店
'03 03 12

弘扬雷锋精神振兴民族工业


雷锋精神伴我行,我
系列主题教育活动之一:
寒假期间,组织全体少先队员以雏鹰自愿者服务队为单位,建立"红领巾"社区服务网,定期协助社区工作人员开展小队便民服务活动,如:成立那条清扫队、田溪社区小书屋、李碧读书站等开展便民服务活动。
系列主题教育活动之二:
寒假里,组织少先队员与"手拉手"友谊
"手拉手,看望劳模大朋友"活动,建议与劳模大朋友的队员,在寒假里
劳模物业的大朋友打电话,了解他的近况,看望劳模朋友,与他共奉献

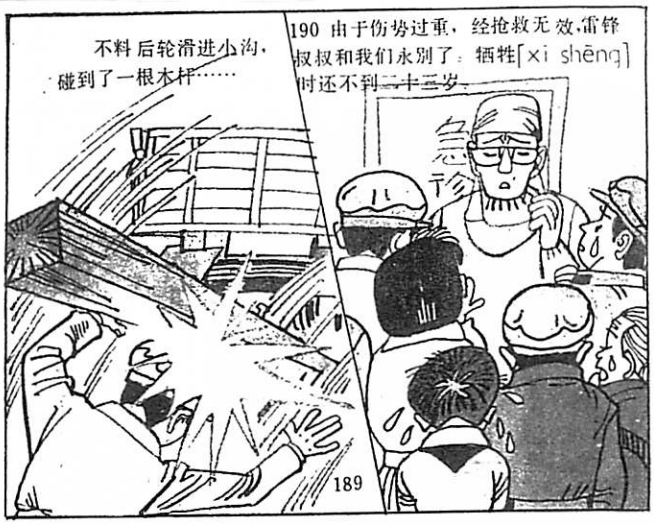
図②

向雷锋同志学习

毛泽东

図③

図④


不料后轮滑进小沟，
碰到了一根木杆……
190 由于伤势过重，经抢救无效，雷锋
叔叔和我们永别了：牺牲[xi shēng]
时还不到二十三岁。
急
189

雷锋，你永远活在我们心中！
191
雷锋叔叔永垂不朽
小学少先队敬献

图⑤

图⑥

雷锋小学

孩子们热爱雷锋叔叔，雷锋更爱孩子们。虽然平时工作学习很紧张，但他还是抓紧一切机会，从报纸、刊物上收集革命领袖、先烈及英雄的故事，利用中午休息或风雨天不能出车的时间，请假到学校去，讲给孩子们听，跟他们谈心。雷锋还经常检查孩子们的作业，进行个别辅导，直到他们弄懂为止。

图⑧

图⑨

『紅小兵』1970年8期
上海版

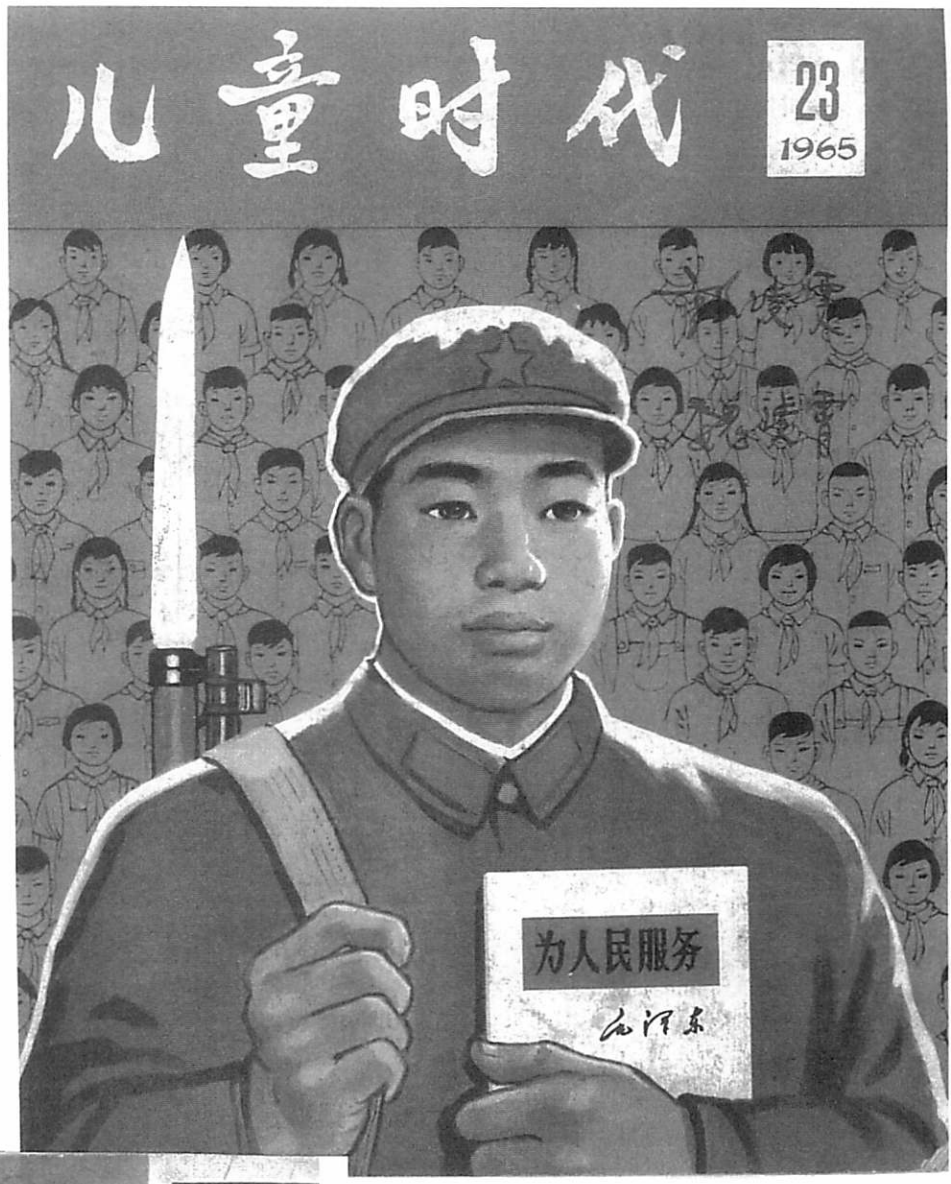
図⑩

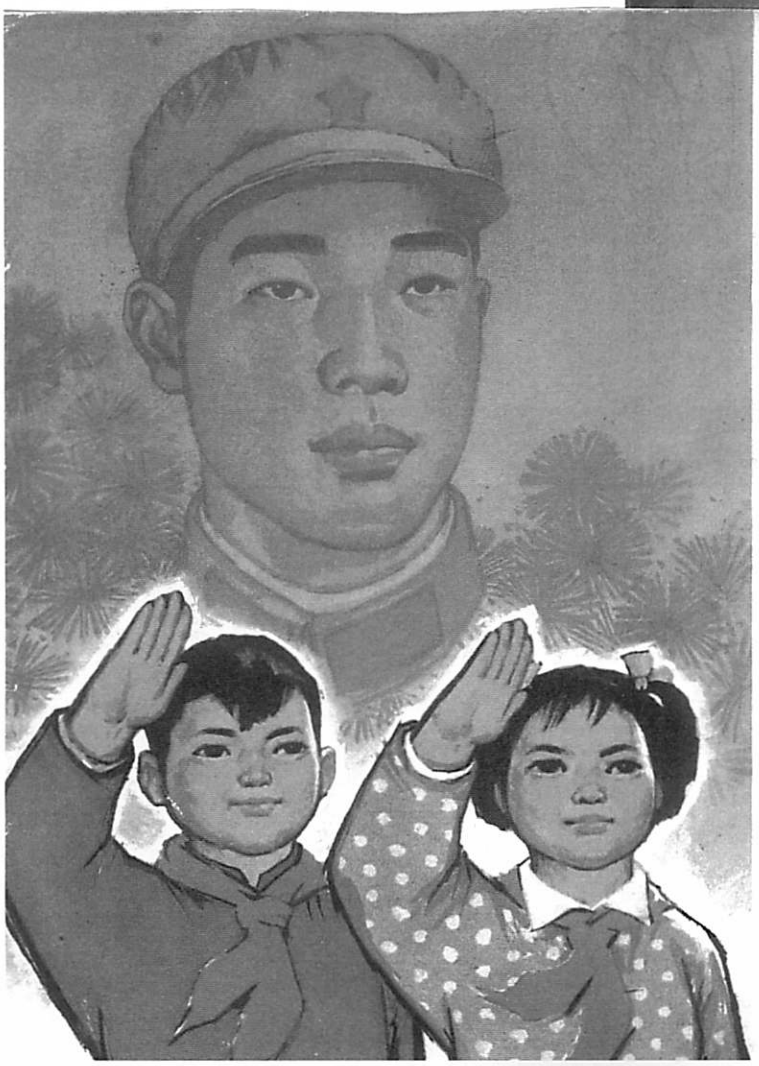
图11

图12

图13

图⑭





小朋友

XIAOPENG YOU

温荣琰

2
1966

毛主席怎样说的，我就怎样做。
王杰日记 摘抄
一不怕苦二不怕死
向王杰叔叔学习！

图⑮

王杰的故事
左手写的笔记
根据刘均孔原作改编 丁纯一画
1 1964年4月5日，王杰在工地上劳动时，右手被烫(tàng)伤了，伤势很重，但他还不肯休息。后来，领导就把他送进医院去治(zhì)疗(liáo)。
2 进医院的第二天，医生去查病房，那医生推开病房门一看，嘿！王杰吊(diào)着右胳(gē)膊(bo)，左手托(tuō)着一本书，正在学毛主席著作呢！

图⑯

图⑰

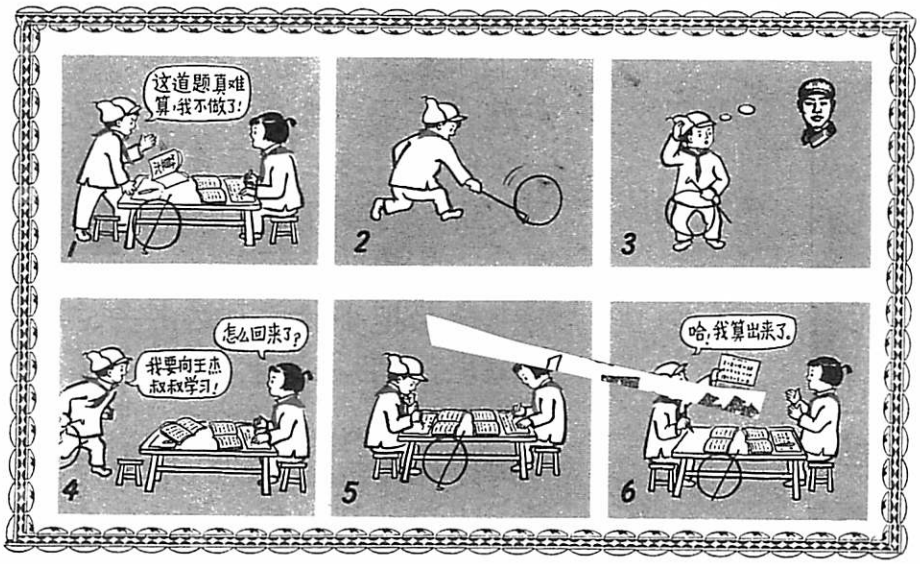

做算术 ZUO SUAN SHU
丁兆庆编画
这道题真难算，我不做了！
1
2
3
怎么回来了？
我要向王杰叔叔学习！
4
5
哈，我算出来了。
6

图18

XUE XI WANG JIE HAO SHU SHU

学习王杰好叔叔

1=♭B 2/4　　刘明将词曲

亲切、歌颂地

1. 石榴花，红又红，王杰
2. 石榴花，红又红，我们

叔叔是英雄，一心为革命，
都是好儿童，学习王杰好叔叔，

毛主席话儿记心中，不怕苦，不怕
毛主席话儿记心中，奋发学习为革

死，舍己救人真呀真光荣！
命，我们接班不怕担子重！

小朋友（半月刊）第二十四期（总第265期）
一九六五年十二月二十五日出版　每本定价一角
编辑者：小朋友编辑委员会　地址：上海延安西路1538号
出版者：少年儿童出版社　印刷者：中华书局上海印刷厂
发行者：上海市报刊发行处　预订处：全国各地邮局
上海市期刊登记证沪出版字第018号　书号：100—264　代号：4—2　印数：1—490,310

封面、底：不忘阶级斗争　紧握革命枪杆（年画）　张雪茵画

图19.21

雷锋叔叔鼓舞着我们前进

亲爱的小朋友：

今年的“六一”征文、征画，到五月廿五日止，共收到全国各地应征的文稿四千多件、画稿一千多件。我們在此，特向給我們热情支持的各地小朋友，以及学校、老师、輔导員表示十分的感謝！

从来稿中，可以鮮明地看出：我国少年儿童，已把毛主席发出的“向雷鋒同志学习”的号召，变成了自己的行动。全国各地每个角落，每时每刻，都在不断地涌现出成千上万的动人的事迹。这些都說明：我国少年儿童，在党的阳光撫育下，正在苗壮地成长着。

本刊从这期起，将陆續选登这次征文、征画来稿中的优秀作品；作品一經发表，即寄发奖品一份。由于編輯部人手不多，来稿一律不退稿了，請大家諒解。为了把我們的习作园地——《小苗圃》办得更加丰富多彩，我們希望今后继續得到你們的支持。

《儿童时代》編輯部

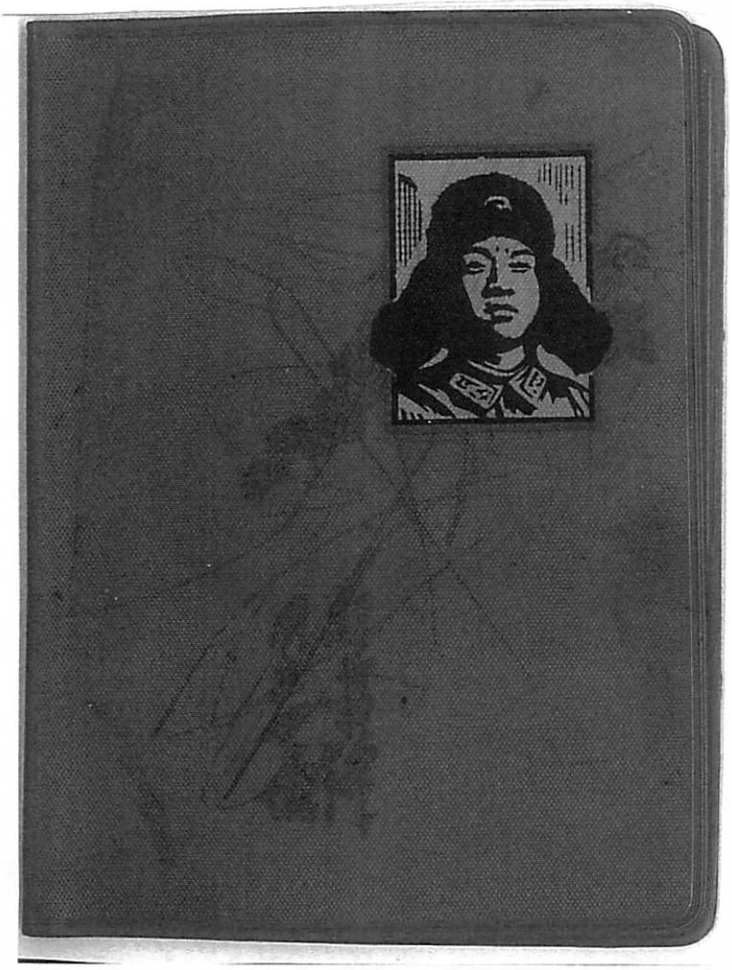


图22

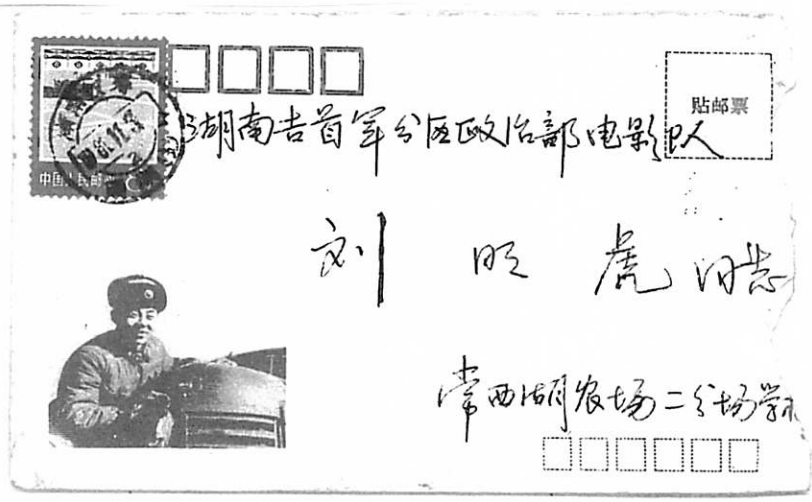


图20

《雷鋒叔叔鼓舞着我們前進》

"六一"征文

爱亲的小朋友：

自从毛主席发出"向雷鋒同志学习"的号召后，我們少年儿童和全国人民一样，听毛主席的話，积极开展了向雷鋒叔叔学习的活动。为了反映我們在学习雷鋒叔叔的活动中，不断湧現出来的好人好事，今年"六一"征文的题目是：**《雷鋒叔叔鼓舞着我們前进》**。写些什么內容呢？那可多啦。总的来說，可写我們两年来向雷鋒叔叔学习，听毛主席的話，立志做无产阶級的好儿女，共产主义的接班人的好人好事：（一）学习雷鋒叔叔热爱人民、热爱集体、为保卫集体利益，坚决勇敢地和坏人坏事做斗爭；（二）学习雷鋒叔叔，树革命的雄心壮志，为人民发奋学习，立志做革命的接班人；（三）学习雷鋒叔叔积极参加劳动和公益劳动，为工人、貧下中农、烈軍属服务；（四）积极参加社会活动，象在綠化、除四害、講卫生等活动中的好事儿；（五）此外，象同学間的团結友爱，互相帮助的新道德新风尚等等。

可以写的內容虽是这么多，但写时不要在一篇文章中把这些方面都写到；最好挑选你亲身經历、感受最深的一件事，或者一个班級、一个中队或一个小队的好事例。至于用什么形式表現好呢？那要根据你所写的內容的需要来确定。比如記叙文、故事、日記、詩歌、书信、快板等等都可以选用，并可根据所写內容，标上题目。但不論用什么形式，我們都要求事迹眞实，語句通順，字数最好在一千字以內。

这次征文的对象是小学四、五、六年級学生（初中以上学生，不列为本次征文的对象）；**时間从四月一日起，至六月卅日止**；凡被选中的文章，从今年六月一日起，将陆續在本刊**《小苗圃》**专栏中发表。文章一經发表，即贈奖品一份。来稿一律不退，請自留底稿。

征文来稿，請写明眞实姓名，所在学校、年級和家庭住址，貼足邮票，信封上注明"征文"字样，寄上海常熟路157号，《儿童时代》編輯部。

另外，我們欢迎各地小学，根据这次征文的要求，将你校符合这次征文要求的作文、日記等，挑选一些，并对內容核实后，加盖学校公章，寄給我們。

《儿童时代》編輯部

儿童时代 6 1965

· 总第三五五期 ·

一九六五年三月十六日出版

毛主席題詞："向雷鋒同志学习"

爱什么？恨什么？

（小号角）……曉　江（1）

雷鋒（电影图画故事）……（17）

象雷鋒一样（故事）……（2）

雷鋒在召喚

（歌曲）……劫　夫曲　高　楓詞（5）

向貧下中农学习（故事）……（6）

蓖麻地里的故事（报道）……張　村（10）

乒乓新苗（报道）……朱一德（13）

女少年們，大家都来打乒乓

（我們的节目）……（15）

中巴友好万岁！……（21）

南越軍民巧妙打击敌人……（22）

欢唱新儿歌……（24）

理发員——小会計——邮递員

洞中勃人（通讯）……（25）

知識宮……（28）

怎样种好蓖麻、向日葵——蓖麻

浑身都是宝——向日葵用处大

——《講科学·破迷信》

同是喝口水

（掏粪的故事③）……时傳祥（33）

小巷激战（詩）……叶文艺（34）

一块干粮等（小苗圃）……尙志清等（34）

《雷鋒叔叔鼓舞着我們前进》

（六一征文）……（36）

傣族儿童

（彩色照片）……中国建設社供稿（封面）

中国革命軍事博物館

（伟大的首都⑥）……（封三）

听革命故事（版画）

……陈文雄木刻　陈忠干配詩（封底）

編輯出版者　中国福利会兒童时代社

地址　上海常熟路一五七号

总发行处　上海市报刊发行处

訂购处　全国各地邮电局

排印者　上海市印刷三厂

封面印刷者　上海华一印刷厂

印数 182,090　　4—3

上海市期刊登記証沪出期字第七号

每本定价　一角五分